地方独立行政法人加古川市民病院機構　令和４年度業務実績の概要

資料4

１．住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

１　公立病院としての役割の発揮と責務の遂行

(1) 救急医療への対応・・・4

・心臓血管センター、周産母子センター、こどもセンターでは、24 時間 365 日の救急受入体制を維持するとともに、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、小児及び妊産婦に関しては圏域外からの受入要請にも対応した。

・救急車受入件数は過去最高の件数となったが、圏域内受入要請件数が対前年度約 1，000 件、対 2019 年度約 1，600 件増加し不応率も高くなった。

(2) 災害時における機能の強化・・・4

・医療班を編成してM8.0 の大規模地震を想定した兵庫県合同防災訓練や加古川市の総合防災訓練に参加した。また、防災ヘリによる患者搬送訓練に協力参加し、離着陸および患者搬送の運用を確認するとともに、大規模水害を想定した水害対策訓練や、災害時の患者搬送訓練を実施した。

(3) 感染症対策の強化・・・5

・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、最大52床の入院受入病床を確保し、小児や妊婦、透析患者など他の医療機関で対応が困難な患者の受入を行った。また、外来においては、発熱等診療・検査医療機関としての機能を維持した。更には、加古川市が推進するワクチン接種事業に医療従事者を派遣し、感染予防・重症化予防に協力した。

(4) 地域の中核医療機関としての役割の発揮・・・5

・ 地域連携部門において、PFM を推進し、入院前から治療後の療養生活に円滑に移行できる患者支援を行ったことに加えて、急性期治療終了から、後方支援病院や在宅医療への移行など、他の医療機関と連携を図り、地域包括ケアシステム推進を図った。

２　高度・専門医療の提供

(1) がん医療の充実・・・4

・がん集学的治療センターが中心となり、国指定の地域がん診療連携拠点病院（高度型）として、高度かつ低侵襲な専門治療や患者ケアを推進したほか、地域医療機関と連携したがん治療のセミナーの開催など地域を含めた教育面も精力的に活動を行った。

・ がん相談支援室は 2022 年度より認定がん相談センターとして活動しており、がんと生きていく患者や家族を支援した。

・前立腺がんに対するスペーサー留置術を運用し、放射線治療時より低侵襲となる治療を推進した。

(2) 循環器疾患にかかる医療の充実・・・4

・ 24 時間 365 日体制で急性期循環器症例の受入や、脳卒中の救急医療体制の確立へ向けた取り組み、低侵襲治療の拡大、循環器領域への緩和ケアの導入など地域の心臓血管センターとしての役割を果たした。

・MitraClip の運用を開始し、より低侵襲治療を推進した。

(3) 消化器疾患にかかる医療の充実・・・4

・ 総合的な診療体制により、出血を伴う消化管急性疾患や、胆管炎、胆道閉塞などの急性疾患に対する緊急内視鏡治療に対応し、地域の救急医療をカバーしている。

・ 直腸がんに対する経肛門的直腸間膜切除術（TaTME）を新たに開始し、従来の腹腔鏡下手術では対応困難な症例においてもより低侵襲な治療が可能となった。

(4) 周産期医療の充実・・・4

・地域周産期母子医療センターとして地域の三次救急の役割を担い、24 時間 365 日ハイリスク妊産婦をはじめ緊急性の高い母体、新生児救急症例の受入を行ったほか、圏域外からの新型コロナウイルス感染症母体受入要請にも対応した。

(5) 小児医療の充実・・・4

・小児地域医療センターとして、24 時間 365 日の救急受入体制を堅持し、従来の緊急性の高い疾患に加えて、新型コロナウイルス感染症患児の治療を行った。

(6) センター診療機能の更なる充実・・・4

・ 新たに呼吸器センターを開設した。高度な医療を提供するほか、感染症に伴う肺炎や気胸など様々な呼吸器疾患に対して内科、外科の枠を超えた医療を提供している。

(7) 総合診療体制とチーム医療の充実・・・5

・集中治療室では早期離床のためのﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを行ったほか、専任の管理栄養士を配置し、集中治療の初期段階から栄養介入を行い、早期退院や退院後の QOL 向上に係る体制を強化した。 **（総合診療体制の強化）**

・集中治療領域において、より高度な体制を要するSuper-ICU（特定集中治療室管理料1）と、ハイリスク手術後の集中管理行うHCUに機能分化を行った。血管造影とCT撮影を同時にできるハイブリッド型IVR-CTを運用し、より正確で安全な治療を行うための環境を推進した。 **（高度・専門医療の提供）**

・新型コロナウイルス感染症の診療を安全かつ効率的に行うために、感染症パス、感染症妊婦パスを運用し、臨機応変に対応した。既存の8種類の看護外来に加え新たに4種類を展開し、多職種と連携しながら在宅療養への支援を行った。 **（チーム医療の推進）**

(8) 高度・専門医療を提供する人材の確保と育成・・・4

・幅広い診療科目を有する急性期総合病院として、様々な症例の経験や、専門的なトレーニング機器を用いたシミュレーション、離島を含めた地域医療研修など、様々な研修プログラムを用意し、学べる病院としての機能を発揮した。

・職員の高度な技術習得の意思を支援するため、職員を大学院へ派遣する仕組みを推進した。

・特定行為認定研修施設として5区分8行為の研修を開始した。

３　安全で信頼される医療の提供

(1) 医療安全管理及び感染対策の徹底・・・4

・ オカレンス報告制度では、各診療科の責任者がリスクの点検を行い、報告を行う流れが定着した。

・AI を用いた画像診断支援システムを導入し、肺がんが疑われる検査所見の見落としリスクの低減を図るとともに、各種検査結果やレポートの確認漏れを防ぐ既読管理システムの導入に向けた選定を開始した。

(2) 患者とともに進める医療の推進とサービスの充実・・・4

・ 入院時重症患者対応メディエーターを配置し、重症患者やその家族に寄り添い、容態や治療方針、療養後の生活など家族が医療者に聞きづらい内容の相談に対応した

２．業務運営の改善及び効率化に関する事項

１　自律性・機動性・透明性の高い組織運営

(1) 効率的・効果的な組織運営・・・4

・ 部門別の稼働状況や重要な情報を共有する院内ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞの活用や目標管理制度の徹底を図った他、ﾍﾟｰﾊﾟﾚｽ会議ｼｽﾃﾑの導入により、会議の効率化を図った。また、患者向け動画ｺﾝﾃﾝﾂを活用し、説明動画を提供することで、患者の理解を深めるとともに、説明や問い合わせの効率化を図った。

(2) コンプライアンスの徹底・・・4

・コンプライアンス推進委員会で、ｱｸｼｮﾝﾁｪｯｸﾘｽﾄを導入し、各職場で身近な取組を通して、自発的な活動を推進した。また、前年度に引き続きﾊﾟﾜﾊﾗｱﾝｹｰﾄを実施し、職員の意識と実態把握を行った。さらに、情報ｾｷｭﾘﾃｨでは、新たに標的型ﾒｰﾙに対する訓練を実施し、現状認識と啓発を実施した。

２　働きやすく、やりがいのある職場づくり

(1) やりがいづくり、モチベーションアップへの取組の充実・・・4

・ システミックコーチングにより、風通しの良い組織風土が定着しつつある。また、半期ごとの所属長による評価面談の機会を通して、職員が設定した目標とその達成状況を振り返ることで、双方向の人事評価が機能し、成果の承認や課題の認識によって職員自身の成長を促した。

(2) 働き方改革の推進・・・4

・ 労働および労働以外の時間区分のモニタリングシステムを開発し、各診療科が計画的に労働時間を管理できる体制を整備した。

・2024 年度の医師への上限規制の適用開始に向け、A 水準での対応が困難な診療科においては、「医師労働時間短縮計画」を策定し、評価機関に申請を実施し、着実に手続きを進めた。

・ 特定行為研修機関の開校や夜間の看護業務を補助するナイトサポーターを導入した。

３．財務内容の改善に関する事項

１　経営機能の強化・・・5

・コロナ患者の受入病床を県のフェーズに合わせて臨機に調整し、通常の医療への影響を適宜予測するなど柔軟なベッドコントロールを実行することで、コロナ禍において医療と経営の両立を図り、経営の安定を実現した。

・病院経営に影響する様々な指標を院内開発のBIシステムによってタイムリーにモニタリングし、経営課題を的確に把握することで、迅速な対応を実現している。

２　収益の確保及び費用の最適化・・・4

・診療報酬の査定減点の詳細な分析を行い、委員会で検討した。内容は各診療科にフィードバックし、要注意項目に対して医師と事務が協力して対策を行った。

・BIシステムによる各種経営指標モニタリングを病院全体に共有しており、諸課題に対して迅速に対応した。

４．その他業務運営に関する重要事項

１　地域社会への貢献

(1) 地域社会との協働の推進・・・3

・ 神戸大学認知症予防推進センターが主催するコグニケアプログラムを定期開催し、認知症予防や健康促進のほか、生涯学習やコミュニティづくりを通した地域支援を推進した。

・加古川市でのイベント再開に伴い、ツーデーマーチへの看護師の派遣を再開した。

(2) 市施策への協力・・・4

・ 加古川市が推進する市民へのワクチン接種事業に協力し、スタッフの派遣を行った。

年度計画で定めた指標の目標達成状況

指　標	目標値	実績値	達成率
救急車受入件数	7，800	8，254	105.8%
救急車受入要請に対する不応率	10.0	17.8	91.3%
人間ドック受診者数	2，700	2，763	102.3%
紹介率	70.0	73.3	104.7%
逆紹介率	95.0	103.0	108.4%
がん登録件数	2，600	2，426	93.3%
悪性腫瘍手術件数	1，750	1，611	92.1%
放射線治療計画件数	410	432	105.4%
化学療法件数	12，250	13，392	109.3%
緩和ケアチーム介入件数	190	219	115.3%
冠動脈インターベンション件数	550	506	92.0%
アブレーション件数	300	298	99.3%
デバイス治療件数	210	198	94.3%
末梢血管インターベンション件数	180	140	77.8%
開心術・心血管手術件数	215	268	124.7%
心臓リハビリテーション単位数	30，000	26，508	88.4%
上部内視鏡検査件数	8，700	8，992	103.4%
下部内視鏡検査件数	4，200	4，271	101.7%
内視鏡的粘膜切除術（EMR）件数	650	621	95.5%
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数	160	121	75.6%
分娩件数	750	688	91.7%
ハイリスク分娩件数	150	128	85.3%
小児救急搬送受入件数	1，550	1，978	127.6%
手術件数	8，500	8，493	99.9%
ＭＲＩ件数	23，000	23，272	101.2%
ＣＴ件数	56，000	65，707	117.3%
ＰＥＴ－ＣＴ件数	2，200	2，217	100.8%
クリニカルパス使用率	65.0	67.9	104.5%
医師数（専門医研修医及び初期臨床研修医を除く。）	170	171	100.6%
専門医研修医数（専攻医）	63	62	98.4%
初期臨床研修医数	29	28	96.6%
患者満足度/入院	95.0	95.4	100.4%
患者満足度/外来	85.0	83.3	98.0%
職員満足度（%）	70.0	74.8	106.9%
累積経常利益（百万円）	12，927	15，614	120.8%
経常収支比率	100.4	109.7	109.3%
医業収支比率	100.3	105.1	104.8%
医業収益（百万円）	25，922	26，562	102.5%
入院収益（百万円）	17，310	17，712	102.3%
外来収益（百万円）	7，912	8，346	105.5%
入院診療単価（円）	88，000	94，584	107.5%
外来診療単価（円）	22，500	23，138	102.8%
１日あたり入院患者数	540	513	95.0%
１日あたり外来患者数	1，450	1，484	102.3%
病床稼働率	90.0	85.5	95.0%
給与費比率/対医業収益	47.7	46.1	103.5%
診療材料費比率	16.6	15.5	107.1%
医薬品費比率	14.1	14.5	97.2%
経費比率/対医業収益	13.9	12.8	108.6%